

“ふじのくに” 士民協働事業仕分け結果（事業別個表）

事業番号	16	事業名	企業局広報用ペットボトル作製事業費【知事指定事業】
------	----	-----	---------------------------

1 基本情報

実施日／班名	10月16日 第1班	時間	10:16～11:16
担当課名	企業局 経営課	事業費	5,000 千円

2 判定結果

仕分け結果		県民評価者判定内訳(人)					
県実施 (一部見直し)	判定区分別	行政関与不要	6	国・市町実施	0		
		行政関与必要	⑭		県実施	⑭	抜本見直し
				一部見直し			⑦
	現行・拡充	2					
	判定理由別	仕分け結果と同一区分を判定した県民評価者の主な判定理由内訳(人、複数回答有)					
・サービスの水準や対象者を見直すべき					3		
・事業の効率化を図りコストを縮減すべき					3		
・効果がない(又は低い、不明確な)ため、事業内容を見直すべき					2		

3 具体的な見直し・改善策又はその他意見

<p>&lt;行政関与不要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ペットボトルという媒体を用いて、広報する必要はない。</li> <li>・ 十分に社会科見学や一般見学で足りる。</li> <li>・ より広く企業局の業務広報(静岡の水の価値)をするのであれば、別の(例えばCMや市町の広報誌で見学に来てもらう方を増やすなど)ツールを使えばよい。</li> <li>・ ペットボトルを作成することが県民にとって安心・安全・安定的に水を供給していることのアピールにダイレクトにつながっているのか不明。</li> <li>・ 特に、社会科見学は私自身行ったことがないし、その水を見学者に渡すことでどのようなアピールができるのか不明。←普段飲んでいる水で充分ではないか</li> <li>・ 柿田川の水の販売実績についてより知りたかった。</li> <li>・ 広報用ペットボトル作製事業は有価販売による広報PR活動の効果があるようなので、無料配布の必要性を見直してみてもと思う。</li> <li>・ ペットボトル作製事業費の見直しのための情報として、いろいろな情報が組み込まれているので、一つ一つの情報がどう関わっているのかを説明を受けることにより必要性はわかってきた。が、ペットボトル作製が広報事業の一環として行われている点は目的・効果の見直しが必要と思いました。</li> <li>・ 広報用にわざわざ高いコストのペットボトルを作成する必要はない。広報に冊子を配布すればよい。</li> <li>・ 小学生に浄水場の見学説明をした場合は満足度が高くなるのは当然で、それがどれだけの効果があるのかは不明。一般の人は興味をもって見学に来るから関心があるのは当たり前。</li> <li>・ 水の品質は各水源によって違う。広報としてペットボトルをやる必要はない。</li> <li>・ 8年近く実施してきて、目的はすでに達していると思う。</li> </ul>
--

- ・ 全国でやっているからやるのでは意味がないのでは。あえてやるなら柿田川の水は民間委託してやったら。
- ・ おいしい水、低料金なので、ペットボトルに依る広報は必要ない。
- ・ コスト削減に対しては イ)競争入札 ロ)業務のネット化・外注化 を促進すべきだ。
- ・ 時節柄、放射能についての測定、告知、浄化をお願いしたい。放射能測定値の情報開示、場合によっては放射能浄化装置の導入も長期的な視野によってご検討いただきたい。

#### <県実施(抜本見直し)>

- ・ 話の観点がずれている。あくまでもこの事業の話では？専門委員の方は知識がありすぎて論点をずらしている。最後は話がわかりやすかったが…。他の広報は？と言っているが代案は？
- ・ 見学に来た人には無料で飲める機械(紙コップ)、場を作ればいいのではないか？企業局でやらなくてもイベントでの利用を考える方向で検討した方がよい。
- ・ ライフラインの確保は大切なこと。努力をPRしたい気持ちは十分にわかるが別の方法でどうでしょうか？
- ・ ペットボトルと節水はどう考えても結びつかない。
- ・ 広報としての手段としてペットボトルでなくてもその場で飲んでもらうとか水を持って帰るなどしていけばペットボトルを作る費用も削減できると思うし、理解も少しはできると思う。すでに8年間この事業を行っているので、他の広報の仕方を考えていく必要があるのではないかと思います。
- ・ コスト削減に関して大変な努力をしていることに驚きました。組織体制の見直しでも非常勤で組織されたサテライトを作るなど人件費削減のために経経営努力されていると思います。
- ・ パンフレット、社会科見学でのPRだけで、充分おいしい水は伝わっていると思う。
- ・ H25で終了の事業になっているので、ペットボトル以外のPRへ移行しても良いのでは…。
- ・ コストダウンに力を入れていることは良くわかり、人件費なども考えているのには好感が持てました。水道水が値上がりするのは困りますので…。
- ・ おいしい水、設備の耐用年数の延伸も必要と思うが、それ以上に災害に強い供給体制の維持が必要と思うし、関心があります。

#### <県実施(一部見直し)>

- ・ 専門委員の方の意見も出たように、ペットボトルを無料で配るという必要が必ずしもあるとは思いません。見学に来た時に説明を聞き、その時の飲み比べだけで充分だと思います。子供たちによりますが、授業では見直すことをすると思いますが、自宅に持ち帰り子供が説明するかというと正直全員の子がするとは思いませんので。
- ・ ペットボトル以外の形で検討できないか？(ペットボトル=ごみ問題)無料分はマイボトルでは無理？
- ・ コスト面で容器の大中小で作った結果なのか？
- ・ 県政では事業仕分けの結果に対し、腰を据えて取り組んでほしい。
- ・ 期限は明らかに設定が必要。効果も有名な水については、考えた方が良いのでは。(広報ツールとしては弱い)
- ・ 柿田川の水は全国的にも有名で誇れることです。県・市・近くの町村ともに協力してPRして残していくことが必要なので、ペットボトル以外の方法も考えてほしい。(紙パックは静岡の産業の一つです)
- ・ 500mlに変更し販売ルートの拡大を図ることは、競争の激しい中で赤字の拡大懸念がある。(官業の民間圧迫といわれる位のシェアがとれれば黒字になるが)広報のツールとしては「350ml」(その場で飲みきれる量として適切)で無償でよいと思う。
- ・ 県下、各自治体において県民、市民の参加する会議やイベントにもっと積極的に配布し、PRに努めたらよいと思う。

- ・ 災害対策として、保存用の水として、公民館や小中学校に常備しておいたらどうか。
- ・ 民間委託を更に増やすこと。その場合質の維持を保持できるのか。
- ・ 非常勤職員をもっと増やしても体制の確立はできるのか。
- ・ 工業用水に比べ、水道料金が割高になっている。水としての安全性や精度の問題があるのか。
- ・ ペットボトルでの広報手段はいらぬのではないのか。安価で販売するのは不適切ではないか。

<県実施(現行・拡充)>

- ・ 平成25年度以降も水(みず)産業は伸びていく。折角水で安全、安心的な供給をしているなら、更に広げていくことも考えてほしい。新たな事業で水の良さを広報できる。
- ・ 静岡県の水として民間と共同して柿田川、大井川・・・の水としてセット販売をして利潤を出してもよいのでは。(広報からどう移行するか?)
- ・ 企業局の努力によって削減も実績があり、機器のメンテナンスも削減している実績があるので、有効な税の利用だと思う。
- ・ 毎年の努力の継続が成果を生んでいる。
- ・ 給与まで及び非常勤も正規と同じになる傾向がある時、先を見通した方がよい。
- ・ 県民にとって工業用水とか農業用水に対しての理解を図るより、飲料水としての上水に興味があるから、一部のところをクローズアップすることで十分である。県だけでなく市も水道局で行っているので、広報としてのペットボトルは良い。子供が見学で意識付けは何かお土産が効果的である。安全、安心、安定の水を知るには事実を体験できる。
- ・ 上下水道というものは電気、ガスと同じく生活を営むためのライフラインである。必要以上にコストダウンを推し進めたことにより地震、台風などの災害時に早期復旧に支障が出るようでは、良いコストダウンとは思われない。あらゆる方面、方向性を考えてコストダウンに取り組むべきだと思う。
- ・ ペットボトルの必要性、作成しなければならぬ理由がわからない。できれば、富士山世界文化遺産などを関連させて柿田川の水は世界に発信し富士山という場所、地域はずばらしい資源があるということで柿田川のペットボトルも利用する。ただし、他は廃止(大井川、天竜川、大田川の各ペットボトル)